

＜受賞理由詳細＞

【職域】農林水産省 農産局 園芸作物課 花き振興グループ

《東京2020オリパラ大会において、ビクトリーブーケをはじめとした国産花きの活用に尽力》

| 名称・所在地・代表者・沿革等 | 組織の概要等 |
|---|---|
| <p>農林水産省農産局園芸作物課花き振興グループ</p> <p>東京都千代田区霞が関 1 - 2 - 1</p> <p>花き産業・施設園芸振興室 課長補佐（花き振興第2班担当）</p> <p><small>ちば よしのぶ</small> 千葉 芳信（～R3. 9. 30）（以下15名）</p> <p>昭和63年4月 農産園芸局果樹花き課花き対策室設置</p> <p>平成13年1月 生産局果樹花き課花き対策室に改組</p> <p>平成19年8月 生産局園芸課花き産業振興室に改組</p> <p>平成20年8月 生産局生産流通振興課花き産業振興室に改組</p> <p>平成23年9月 生産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室に再編、花き振興グループ（花き振興第1班・第2班）設置</p> <p>令和3年7月 農産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室に改組</p> | <p>農林水産省は食料の安定供給の確保、農林水産業の発展、農林漁業者の福祉の増進、農山漁村及び中山間地域等の振興、農業の多面にわたる機能の発揮、森林の保続培養及び森林生産力の増進並びに水産資源の適切な保存及び管理を図ることを任務としており、農産局園芸作物課は、野菜、果実、花きその他の園芸農産物の生産、流通及び消費の増進、改善及び調整に関する事務を所掌している。</p> <p>花き振興グループは、花きの生産、流通及び消費の増進、改善及び調整に関する事務を担当している。</p> |

受賞理由（概要）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、東日本大震災被災地の花きを使用したビクトリーブーケをはじめとした国産花きの活用について、花き産業及び文化に係る9団体をまとめ上げ、東京の暑熱下という花きにとって厳しい環境の中でも高品質な花きの提供を実現した。特にビクトリーブーケは、選手団の活躍と併せ、国民に喜びや希望を与えるものとなり、結果、ビクトリーブーケの取組は国内外のメディアにおいて取りあげられ、国産花きの品質の高さ及び被災地の復興のシンボルとして世界にアピールすることに成功し、国内花き産業の振興に大きな影響を与えるものとなった。

受賞理由

1 職務の内容・重要性

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、世界に向けて東日本大震災被災地に対する復興支援への感謝を示すとともに、選手をはじめ来日した大会関係者のおもてなし、被災地をはじめとした国内花き産業の振興等を図るため、国内の花き産業及び文化に係る9団体と連携し、メダリストに副賞として贈呈されるビクトリーブーケや有明に設置されたメインプレスセンターでのいけばなの展示、開会式や聖火リレーグランドスタート会場への花き提供等を行い、暑熱下という花きにとって厳しい環境の中、徹底した品質管理を行い、見事に成し遂げた。

2 職務の特殊性・困難性

東京2020オリパラ大会に国産花きを提供するに当たり様々な困難を克服した。

(1) 花き産業及び文化に係る9団体の連携体制の構築

我が国の花き関係団体は、生産者、卸売市場、流通、小売といった花き供給関係に加え、いけばなやフラワーデザインといった花きの文化に関連した団体が存在するが、花き振興グループの働きかけもあり、それら関係9団体が大同団結した「日本花き振興協議会」が設立され、東京2020オリパラ大会の成功に向けて花き業界が一丸となって取り組める体制を整えた。

(2) 2大会振りとなるビクトリーブーケ復活採用に向けた粘り強い折衝

近年副賞としては不採用となっていた生花によるビクトリーブーケについては、東京2020オリパラ大会においても当初不採用とする方針であったところ、業界と行政が一丸となって組織委員会と粘り強く折衝し、一転採択となった。

(3) 被災地花きの必要量の確保及び暑熱下における品質保持技術の確立

ビクトリーブーケの取組においては、被災地の花きを使用することによりその魅力を発信することとしたが、花き需給に影響を及ぼすことなくオリパラに必要な花きの増産を図る必要があったため、業界と緊密に連携し、産地への働きかけを行った。また、大会期間中、ミスなくブーケの作成、表彰式会場への配送が行われるよう業界をバックアップした。

3 職務への影響及び効果

このように、花き振興グループが関係部局と粘り強く折衝し、いくつもの困難な課題を一つ一つクリアしたことで、ビクトリーブーケや、メインプレスセンターにおけるいけばな展示が実現した。結果、ビクトリーブーケの取組は国内外のメディアにおいても度々注目を集め、国産花きの品質の高さ及び被災地の復興のシンボルとして世界にアピールすることに成功した。

国内花き業界も、今回の成功体験に手応えを感じており、今後海外で予定されている国際園芸博覧会や横浜で2027年に開催が予定されている国際園芸博覧会の成功に向け、一丸となって取り組んでいく意向であり、国内花き産業の振興に大きな影響を与えるものとなった。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるビクトリーブーケの取組について

- ビクトリーブーケの提供は、各産地生産者からの供給、ブーケの制作・会場輸送ともに、低温管理の徹底により、猛暑下でも大きな影響なく無事完了。
- TVをはじめ多くのメディアに取り上げられるとともに、SNSを中心に大きな反響があった。
- オリンピック、パラリンピックを通じたビクトリーブーケの総制作数は6,430束、総制作スタッフは延べ808名となった。

■ オリンピックビクトリーブーケ

制作期間 : 7/22~8/8 (16日間)

制作数 : 3,300束

制作スタッフ : 延べ418名

■ メディアにおける報道状況、SNSでの反響

- ・ NHK総合7/16 「あさいち」
- ・ 日本テレビ7/23 「news every」 「news zero」
- ・ 日農8/2、読売8/26、毎日9/2、中日9/4

以上の他、海外のメディアも含め多数報道

- ・ ツイッター#ビクトリーブーケ 62,000件以上 (7/30時点)

■ パラリンピックビクトリーブーケ

制作期間 : 8/24~9/5 (12日間)

制作数 : 3,130束

制作スタッフ : 延べ390名

■ 橋本組織委会長のパラ閉会式でのスピーチ (抜粋)

「……メダリストの笑顔に添えられたブーケは、東日本大震災の被災地で育てられた花から造られました。(中略) 困難を乗り越えた人たちの不屈の精神が込められているからこそ、この舞台上でいっそう輝いたと思います。この輝きを、復興の道を照らす光として、さらに前へ進めて参ります。」

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会メインプレスセンター（MPC）における いけばな装飾について

- 大会期間中、東京ビックサイトに設置される、メインプレスセンター（MPC）の
エントランスに、いけばなによる装飾を設置。
- 海外の各メディアやレポーターのSNS等で紹介され、世界に向けて日本の
いけばな文化を発信。

展示期間 : 7/13~8/9、8/21~9/5

制作スタッフ : 延べ376名

展示内容 : 大会期間中を4期に分け、使用する
花の色等で日本の季節等を表現。

■ いけばな装飾の様子



■ いけばなを紹介したパネル ■ 海外メディアからの取材の様子

